

## 中山道を歩こう会

(大宮～上尾)

今回は暑い7月です。ちょっと雨が降るくらいが理想ですが「晴天でも決行」です。大宮駅をスタートして上尾駅(上尾宿)までのコースを歩きます。

### 記

■日 時：平成 28 年 7 月 14 日 (木) 8 時 35 分集合

■集合場所：新秋津駅 改札外  
(東所沢駅乗車の方は事前連絡下さい)

■見学場所及び時間：コース全長約 9km

新秋津駅(8:41 発 むさしの号大宮行)⇒大宮駅 (9 : 03)  
⇒土手のシイノキ⇒小休止⇒東大成庚申塔⇒昼食  
⇒加茂神社⇒宮原小学校のセンダン⇒馬喰町の庚申塔  
⇒上尾宿 (井上脇本陣、氷川鍬神社)  
⇒上尾駅…南浦和経由 所沢 (16:30 頃帰着予定)

■交通費 (所沢から) : 約 1,300 円

■昼食 デニーズ大宮宮原店 11:30～12:30 ☎048-652-0570

■散策先簡単ガイド

### <大宮宿本陣>

大宮宿は最盛期には、本陣 1 軒、脇本陣 9 軒がありました。臼倉新右衛門家は文政年間以前、代々本陣を務めていました。(現・キムラヤ)

山崎喜左衛門家は臼倉新右衛門の後を受けて文政年間以降、代々本陣を務めました。山崎喜左衛門の屋敷は現・岩井ビルです。

### <東光寺>

大宮山東光寺は曹洞宗約 15000 寺のうち十指に入る北関東の名刹です。もとは大宮黒塚(氷川神社の東側)にあつて、天台宗に属していましたが、徳川家光の頃、中山道の整備にもなつて現在地に移されています。

寺伝によれば平安時代末期、武蔵坊弁慶の師匠とされる京・鞍馬寺の東光坊祐慶が黒塚の鬼婆を法力をもって退散させ、鬼婆に殺された人々を葬るために庵を結んだことを起縁としています。東光坊祐慶が黒塚の鬼婆を呪伏した際の護身仏と伝えられる1寸8分の金銅薬師如来像を本尊としています。

東光寺は草創以来 880 余年の歴史を有しています。『新編武蔵風土記稿』にもとりあげられており、中仙道を往還する文人墨客が足を留めた所でもあります。

### <土手のシイノキ>

土手町にはいると左に土手のシイノキ、別名鎌倉街道のシイノキと呼ばれる木があります。鎌倉街道は決まった官道ではないので中山道も鎌倉街道として使われていたものと思われます。



このシイノキは街道を覆うような枝ぶりでその木陰で商売をしていたそうです。

### <氷川神社裏参道>

石碑が立っていますが、この裏参道が古中山道です。



### <立場>

JR のガードをくぐった辺りは土手宿村とよばれ立場があったところです。

### <小休止>

仲仙道公園という児童公園にて小休止（約 20 分）

### <大山御嶽山道標>

正面に「大山御嶽山 よの 引又 かわ越道」と刻まれています。引又は現在の志木で新河岸川の水運による物資の集散地で、所沢から志木に向かう道も引又道と呼ばれていました。



### <東大成（おおなり）庚申塔>

元禄十年（1697）建立、地元では“耳の神さん”“眼の神さん”と大事にされており、耳や眼の病気の時には団子を供えたといひます。庚申講は春と秋に行われていましたが太平洋戦争で一時中断し、戦後に復活、現在も年1回の講を開催し昔からの伝統を受け継いでいるらしいです。



### <ニューシャトル>

新幹線のガードを潜ります。新幹線の脇には大宮から出ているニューシャトルが走っています。これは、ゆりかもめみたいにタイヤで走る電車ですね。写真右側



### <天神橋>

壬戌（じんじゅつ）紀行に「右に社あり、人家あり、天神橋の立場という」と書かれています。今は川も見当たりません。しかし天神橋の欄干の一部が残っています。



文化7年（1810）故郷越後に向かう小林一茶は蕨の三学院に詣で浦和を通り、大宮を出た頃から五月雨が強く降りだした。宮原の天神橋を渡り始めた一茶はふと足を止めたため息とともに「五月雨や 胸につかえる 秩父山」と句を詠んだとか。秩父山は武甲山、ここから見えたんですね。

### <昼食>

デニーズ 大宮宮原店

### <加茂神社>

その昔、京都の上賀茂神社を勧請したものと伝えられます。



木曾街道 上尾宿 加茂之社

本殿には見事な彫刻が施されています。

上尾宿加茂の社と描かれています  
が、ここはまだ宮原町、加茂社が上  
尾宿内と誤認して描かれたそうです。



### <宮原小学校のセンダン>

このセンダンは、前身の加茂学校  
設立当時、先生の一人が郷里の高知  
から苗木を持参し、植えたものだ  
といわれています。現在この木は校歌にも歌われ、宮原小学校のシンボルと  
なっています。

センダンは暖地性の落葉高木で、この辺りではめずらしい樹木です。な  
お、「梅檀は双葉より芳し」の諺はこの木でなくビャクダンのことを指して  
いるそうです。

### <南方(みなかた)神社>

吉野村の総鎮守となり、地元では、「お諏訪  
さま」と呼ばれ、親しまれています。

総本社：諏訪大社 祭神：建御名方命（たけ  
みなかた）他



### <庚申塔>

寛政十二年(1800)建立の庚申塔があり、川越道の道標  
を兼ねています。正面には青面金剛が彫られ横に「是  
より秋葉へ十二丁 ひら方右壱里八丁 川越へ三里」と  
刻まれています。旧道が線路で分断されているため、  
道標の機能は損なわれてしまっています。



所在地は中山道から平方方面へ向かう旧道が分岐す  
る地点で、道路拡幅のため元の位置からは少し奥まっ  
た位置に移動されています。この地点は旧上尾下村と別所村の境に位置し、  
昔から村境として認識されていたといわれています。昭和10年ころまでは  
中山道をはさんだ向かいに団子屋があつて、原市方面から平方の船着場へ

向かう商人が小休止したといい、この辻が交通の要所であったことが分かります。

### <愛宕神社>

愛宕神社の前に小さな祠がある。その中に「庚申塔」が鎮座している。

享保 7 年（1722）建立。



### <上尾宿>

本陣 1 軒、脇本陣三軒、江戸後期には旅籠 41 軒で中山道では比較的大きな宿場でした。

上尾原市新道バス停辺りが上尾宿の入口、そこに川越道入口があり鉄製の常夜灯があったそうです。上尾宿には飯盛女が多く、それで川越から三里の道をものともせず川越の若侍が通ったそうです。

上尾宿は大火で本陣・旅籠は消失してしまいましたが**林本陣**（現藤村病院のあたり）の守り神が**稲荷神社**が残っています。

林本陣の両側に**井上脇本陣**と**白石脇本陣**、氷川鍬神社の右の**細井脇本陣**がありました。

本陣の隣の**井上脇本陣**のあった所には井上家の屋根にあった**鬼瓦**を見ることが出来ます。

しかし、鬼瓦で追い払われた厄鬼は前の家に行き災いを起こすといわれていて、前の家は**鍾馗様**を上げる珍しい風習があります。

藤村病院の向かいの**新井呉服店**に鍾馗様が上げられています。この風習は今ではあまり見ることができなくなりました。



本陣稲荷



井上脇本陣の鬼瓦



屋根に上げられた鍾馗様

なお、右の写真の鍾馗様は新井呉服店の物ではなく、次回行く「上尾宿の説明板」の上にあったものです。

また、井上脇本陣の手前**伊勢屋**と**菓子店**では屋根ではないが店頭には鍾馗さまが飾られています。

### 【氷川鍬神社】

寛永9年（1632）創建の氷川鍬神社は、上尾宿発祥の地であり、総鎮守です。鍬祭りとして鍬を祀ったのが由来で、小さな鍬2丁を神体とし、五穀を司る農業神を祭神とします。「鍬大神宮」「御鍬大明神」と称し、明治41年（1908年）に二ツ宮氷川神社（在・上尾市上尾村）の女体社を合祀して現在の社号となりました。地元では「お鍬さま」の愛称で親しまれています。ここには次のような伝説があります。所沢来迎寺の「車返しの弥陀」と同じような話です。

「桶川宿方より来た童子が引いていた櫃が上尾宿本陣前で動かなくなり、童子はいずこかへ消え失せた。翌正月に櫃を開けてみると、鍬2本と稲穂があり、鍬2本を神体として本陣前に社を建立して祀ったのが創建の経緯」

氷川鍬神社の奥に屋根に鍾馗様を載せている家が1軒あります。その家の前の家にはやはり鬼瓦があったそうです。

### 【上尾郷二賢堂碑】

天明八年（1788）雲上上人は旅籠を営んでいた国学者山崎武平次（号：硯茂）とともに「聚正義塾」という学校を開いた。これは寺子屋や私塾と違い宿の人々が運営する公立学校のようなものでした。この学校は鍬神社の境内に作られた二賢堂（菅原道真と朱子学の創始者朱文公を祀った）と呼ばれるものです。

### <帰路>

上尾（高崎線）⇒（京浜東北線）南浦和（武蔵野線）⇒新秋津經由  
所沢着 16:30 頃予定

以上